

会議記録

作成部局課名 丸子地域自治センター 地域振興課

開催日	平成 21 年 12 月 18 日(金曜日)	開催時刻	13 時 30 分から 15 時 41 分
会議名	丸子地域協議会(平成 21 年度第 9 回)		
出席委員	浅倉委員、大森委員、片桐委員、木下委員、倉沢委員、甲田委員、笹井委員、笹沢委員、滝沢(俊)委員、滝沢(浩)委員、武井委員、土屋委員、成澤(啓)委員、成澤(み)委員、本間委員、宮坂委員、村松委員、柳原委員 【欠席】生田委員、竹花委員、		
市側出席者	関丸子地域自治センター長、佐藤センター次長兼地域振興課長、小宮山公有財産管理課長、藤沢課長補佐兼公有財産管理担当係長、間宮公有財産管理担当係長、伊藤交流・文化施設建設準備室長、松井子育て・子育て支援担当係長、中沢主事、竹内社会教育課長、大平地域政策担当係長、中村地域政策担当主査		

- 1 開会(佐藤センター次長)
- 2 会長あいさつ(片桐会長)

新聞報道によると、母袋市長が来春の市長選への意欲を示されたようです。その中の自己評価という点で、9つの地域協議会の設置を掲げており、地域協議会に対する期待が大きいわけですが、必ずしも期待通りその機能を発揮しているとは言えないと思います。

しかし、合併して3年間の行政の取り組みを見ていると、様々な検討委員会を立ち上げて、幅広い住民の意見を聞きながら進めてきている点については、従来のスタイルから、住民参加のスタイルに大きく変わりつつあるのではないかと考えています。そういう面から、地域協議会の占める役割は、今後ますます重要になってくるだろうと思います。

丸子地域協議会では意見をとりまとめ、市へ意見書として提出しますので今後の参考にさせていただきたいと思っています。今まで真剣に取り組んでいただいた皆さんにお礼を申し上げます。

3 報告事項

(1) カネボウ丸子工場跡地利用について(公有財産管理課)

今までの経過と今後の利用について説明。

- ・ 大和リース(株)の商業施設の拡充について 出店計画は市との売却単価の折り合いが付かず断念された。その経緯を説明。平成 18 年 4 月から 20 年間の定期借地権により商業テナント事業を展開している大和リース(株)から、平成 19 年 2 月に、新たに貸し店舗を展開したいので隣接する上田市土地開発公社の用地を借用したい申し出があった。現在貸し付けている場所は、フレスポまるこ 1 期の部分で、新たに借用の申し出があった場所は、フレスポまるこ 2 期と記載された場所。市では要望を受け、丸子地域の皆さんの意見を聴き判断すべきと考え、平成 20 年 9 月 12 日付で丸子地域協議会へ 3 点諮問した。フレスポまるこ 1 期市有地の売却。フレスポまるこ 2 期用地を定期借地権で賃貸。旧食堂棟の活用について。同年 11 月 19 日付で丸子地域協議会から答申の付帯意見として、「地元商店街の振興について積極的な支援と配慮を要望する」「土地開発公社の保有する土地について積極的に売却、活用を図るよう要望する」「旧食堂棟等の既存施設の活用については、地域の商工団体等が行う地域の活性化や住民の福祉に資する事業に活用できるようご配慮いただきたい」というもの。市では丸子地域協議会の答申を尊重し、今後の対応について内部で検討した結果、 を売却し、 については上田市が土地開発公社から買戻し、大和リース(株)へ定期借地権により賃貸することとした。その方針に基づき、昨年からの売却単価等の条件について交渉してきたが、大和リース(株)から、昨年 9 月アメリカの大手証券会社リーマン・ブラザーズ倒産による国内外の経

済不況や会社の経営状況等を総合的に判断され、市との条件に折り合いが付かないということで計画断念の申し入れがあった。その申し入れを受け、市としても市民の大切な財産なので売却に当たっては適正な対価で売却すべきと考え、断念せざるを得ないと報告した。12月市議会でも報告し、予算措置等について議決いただいた。大和リース㈱からは、今後も現在の場所で引き続き営業を行いたいという意向を聞いている。

- ・ カネボウ丸子工場跡地は、ベルプラザと住宅団地を除く、約 142,000 m²を旧丸子町と旧丸子町土地開発公社が取得し、これまで民間活用と公共的活用を基本とし、平成 10 年度から開発を進めてきた。民間活用としては、企業への売却や定期借地権として活用し、公共的活用としては、ベルパーク、中丸子保育園、学校給食センター等活用を図ってきている。未利用地となっているのは、中丸子保育園の北側、学校給食センターの西側、南側。
- ・ 未利用地の活用や上田市土地開発公社の健全運営と、市の将来負担を考慮し現在の上田市土地開発公社の土地を、市で買い戻したい。また土地利用として公共利用、一部民間からの引き合いがあることから、次年度に買い戻す予算を計上していきたい。面積は約 36,400 m²で、買い戻し価格は約 10 億 7 千万円を考えている。
- ・ 未利用地の利活用として 中丸子保育園北側と学校給食センター西側は、丸子・武石地域の地域図書館の設置を予定しており、地域の特色を活かし、多くの市民に利用していただける施設となるよう現在、丸子図書館建設運営研究会で検討をいただいている。学校給食センターの南側は、資料で公募による利活用と記載されているところと、フレスポまるこ 2 期の部分約 29,900 m²について、民間等からの土地利用の提案を募集し、売却と一部貸し付けにより土地利用を図っていききたい。売却面積は約 24,000 m²、貸付面積は約 5,900 m²を予定。貸付場所はフレスポまるこ 2 期の周辺。公募の提案条件として、地域の活性化、住民の福祉の向上に寄与する観点での計画として、住環境・生活環境に悪影響を及ぼすおそれがあるような業種・業態の応募に関しては制限を設けたい。応募があった提案については、関係団体等と行政による審査会を組織し、最終的な判断を行い、土地の売却先を決定してまいりたい。

資料 1 カネボウ跡地計画平面図

主な質疑の内容

(委員) いつから公募するのか。

(公有財産管理課) 今、公募の内容等を検討している。来年 1 月に公募していきたい。周知方法としては、広報誌とホームページに掲載していきたい。

(2) 交流・文化施設等整備計画について(交流・文化施設建設準備室)

今まで検討委員会の検討内容について 2 回説明。このたび市の整備計画がまとまったので、改めてその概要について報告。来年の 1 月に市民説明会でも詳しく説明し、市民の皆さんから広くご意見をいただきたい。

- ・ これまでの検討経過 平成 18 年 3 月新生上田市発足以降、J T 開発地における公共利用について様々な角度から検討を行い、平成 19 年 1 月に公共利用の方向性を示した。昨年 8 月に「交流・文化施設等整備検討委員会」を設置し、施設の理念、目標、具体的な規模・機能について議論いただいた。合わせて利用団体等との懇談会や市民意向調査、市民公聴会を行い、直接市民の皆様のご意見を聞き計画に反映させてきた。検討委員会では、1 年余りの間に 27 回の会議を重ね、今年 8 月末に検討結果報告書をいただいた。市では、10 月のまちづくり懇談会で改めて検討結果報告書

の内容を説明し、意見等を聞くとともに、出前ときめきのまち講座、各地域協議会、自治会、市民団体等へ説明しご意見をいただいていた。以上の経過を踏まえ、市として整備計画を策定した。

- ・ 整備計画の内容について説明 1P ・交流・文化施設等の整備に向けた基本的な考え方を記載。文化芸術は心の豊かさや人間の感性を磨き生きる支えになるとともに、地域のポテンシャルを高めるなど、地域活動のあらゆる側面に好影響を与える。交流・文化施設は、地域の文化力や魅力を高め、上田市の進むべき方向性について、市民憲章、第一次総合計画、文化芸術振興に関する基本構想に基づき、その理念の実現を目指してまいりたい。3P からは、「新しい交流・文化施設は、こんなことができる施設です」として、交流・文化施設で行われる様々な事業の内容、市民の皆さんが参加したり、体験したり、活動したりする活動例を示した。交流・文化施設では、「人にやさしい夢と未来を紡ぐ 創造都市うえだ」を基本理念として、新たな『育成』『観賞』『創作』『交流』等の活動が行われ、人が、まちが、豊かに育まれる新上田市を目指す。具体的な活動例として、こころの豊かさのために（全ての世代の方々へ）様々な公演・展示が楽しめる。各種の講座やワークショップで新たな世界を体験することができる。公演や展示、イベントなどを自らの手で行うことができる。P4 文化芸術を気軽に楽しく、生活の中に活かしていただくことができる。知的により深く味わいましょう。では、ホールの裏側を覗くバックステージツアーなど、どきどき、わくわくした好奇心を刺激しながら、新たな発見や感動が得られる。文化芸術をお届けします。では、教育や福祉の場へアーティストやスタッフが出かけていくことができ、新たな体験が広がる。5P 子どもたちの未来のために 子どもときから文化芸術を身近に感じることができる。新たな価値観に出会える場となり、より子どもたちの感性を磨くことができる。一人で、親子で、文化芸術を「体感」していくことができる。ものづくりの体感をすることによって、新たな喜びを発見することに繋がる。施設のほかに広場の整備も計画しており、外でも楽しく元気いっぱい家族揃って楽しむことができる。P6 文化活動を行う方々へ 何でも相談してください。日常の文化活動における相談窓口を設けながら、文化活動の継続と向上を支援していく。文化芸術の自己表現に利用していただく。地域の活性化のために 様々なコンベンション利用を考えている。大会・総会・式典・講演会など、この施設を大いに利用いただくことができる。常に人が集う場を目指す。P7 からが整備計画の本文。第1章 基本理念と機能 1.基本理念と目標 P8 2.文化創造と都市創造 育成 観賞 創作 交流のそれぞれの考え方と主な事業展開の例を記載 P10 まで。P11 第2章 施設整備方針 1.施設整備用地 J T 開発地の一部約 45,000 m²。P12 2.施設整備の方向性・5つの施設整備の考え方を記載。施設を一体的、総合的にとらえていく必要があり、地球環境の配慮と人にやさしいユニバーサルデザインの設計、シンプルで機能的なデザインを基本とすることを明記。P13 3.全体施設構成・規模と配置イメージ、施設の全体の面積とイメージを記載。P14 からが施設ごとの具体的内容。基本的には検討委員会の最終報告の内容を尊重し、基本設計等を行う前の段階なので、現時点であえて細かい内容まで特定せず、今後設計等を進めていく中で、さらに建設費の節減等にも留意しながら、慎重に判断してまいりたい。(1)ホール 規模(座席数) 1700 席程度とし、具体的な構造・席数については、今後さらに検討してまいりたい。想定される用途 記載のとおり多目的利用を想定。(2)小ホール 規模(座席数) 300 席程度 P15 (3)美術館 (4)交流施設 P16 (5)管理部門 (6)市民緑地・広場 (7)駐車場 についても、現時点で想定できる面積と用途を記載。P17 第3章 建設費計画 建設費も基本設計前の段階なので、具体的な施設の構造、配置等まったく決まっていないので、他施設の事例をもとに試算。建設費の上限を 100 億円とし、今後の設計等の段階において、建設費の軽減に努めることとしている。建物以外を含めた事業費の見込みは、総事業費で 135 億円を上限としている。財源の見込みは、まちづくり交付金

が14億円、合併特例債が111億円（後年度の交付税措置として78億円が見込まれている）、一般財源を10億円と見込んでいる。合計で135億円とし、市の最終的な負担額は、43億円程度と見込んでいる。P18 第4章 運営管理計画・施設を将来に向けて活かしていくために重要な部分。基本理念と目標に基づいた事業展開を、積極的かつ効率的に実践できる組織・体制づくりが重要。具体的な内容は、今後さらに詰めていくこととし、現段階では基本的な方向性についてまとめた。専門人材による運営管理。～ 市民との協働。企業メセナの活用。具体的な運営管理の組織案は、直営、指定管理が考えられるが、今後の検討の中で最適な手法を決めてまいりたい。P19 第5章 事業計画 1.ホール部分の事業計画 (1)事業方針 長期的な視野に基づく事業展開 ほんものの芸術と出会い、文化芸術経験と刺激・感動を得られる場を提供 以下 まで項目を設定。P20 (2) 事業内容 自主事業 貸館事業 の二つに分けて事業展開を想定。P21 美術館の事業計画 (1) 事業方針 郷土作家の顕彰・企画展示 ～ (2)事業内容 P22 第6章 運営管理費計画 1 支出の試算(1)維持管理費 m²あたり維持管理費は、ホール部分と美術館部分 15,000 円、交流施設部分は 12,000 円、管理部門 10,000 円とし、それぞれに想定面積を掛けた結果、施設全体の年間維持管理費は2億3千百万円と試算。なお、今後の設計段階で、さらに維持管理費の軽減を目指す。(2)事業費 本施設の理念が実現できる事業展開として、ホール部分で約4千万円、美術館部分で約1千万円、合計約5千万円の事業費を想定。(3)人件費・ホール、美術館合わせて20名程度の人員で1億円程度と見込んでいる。(4)まとめとして、運営管理費全体として、約3億8千百万円程度かかるものと試算。P23 収入の試算・主な収入として、施設を貸し出す利用料収入と、事業実施に伴う事業収入がある。現時点では見込むことができないので、それぞれ他施設の例を元にし、合計6千7百万円程度と試算。3 収支試算結果のまとめ 施設の収支の差額は3億1千4百万円と試算。ここから上田市市民会館と山本県記念館の現在の施設維持管理費分8千万円を差し引くと、本施設整備に伴う市としての実質経費の増加額は年間で2億3千4百万円と見込まれる。P24 第7章 エリア・マネジメント 施設管理運営にあたっての施設間の連携、周辺との連携、既存施設との連携をはかりながら、文化芸術の振興のみならず、地域振興・活性化にも寄与していく方針を記載。P25・2.市民との連携・協働 市民皆さんに積極的な支援や協力をお願いし、市民とともに歩む施設としてまいりたい。P25 第8章 整備スケジュール 現時点での予定は、平成25年度末のしゅん工、平成26年度の開館を目指し進める。

- ・ 今後の予定 「交流・文化施設等整備計画説明会」を1月7日から26日まで各地域で合計10回の市民説明会を計画。丸子地域でも2会場を予定、大勢の皆様にお越しいただき、活発な意見交換ができればと考えている。
- ・ 今回の整備計画は、現時点で想定できる、また、すべきと思われる部分について最大限盛り込んだ計画をしたつもりだが、今後、基本設計、運営管理計画等、施設の具体的な中身を実際に決めていくのはこれから。今後も段階を慎重に踏みながら進めてまいりたい。次の世代を担う子どもたちの知性・文化の創造、新たなまちづくりの拠点となるよう取組んでまいりますので、引き続きご理解ご協力を賜りたい。

資料：上田市交流・文化施設等整備計画

主な質疑の内容

(委員)文化活動の中に「食文化」という部類が対象にならない施設か。どのくらいの調理可能施設があるか。それによっては大きな食のイベントでかなり人を集めることができる。また茶道のお茶会ができるか。外で、例えばテントを張って、食に関するイベントを企画した場合に、可能な水道

施設、調理施設等が考えられるか。

(交流・文化施設建設準備室)文化の定義は幅広い。この施設は文化活動、地域活動のあらゆる場として利用することが可能だと考えている。まだ整備計画の段階で、具体的な施設内、会議室、多目的ホール等の作り方はこれから。検討委員会では、大ホール、小ホールを除く交流施設のあり方として、平土間の多目的ホールをつかって、いろんな活動ができる工夫が必要だと指摘いただいている。これまでは、調理室を作るとか具体的な意見はなかったが、丸子文化会館にあるようにパントリーのようなものや伝統文化の活動を継承していくための和室も必要だというご意見もいただいている。具体的な意見はどんどん出していただき検討していきたい。計画している緑地広場でも様々な活動、交流やイベントが可能。水周り等の設置については、これから決めていくことなので、そういったご意見・提言もいただきたい。

(委員)中間報告の後に市民公聴会等で意見を出されたと思うが、出された意見は計画に反映されたところがあるか。

(交流・文化施設建設準備室)中間報告では大ホールを1500~1700席程度と幅を持たせていたが、学校現場や文化団体、若い市民の皆さんから、できるだけ大きいホールを望む意見をたくさんいただき、整備計画へつながってきている。小ホールは、中間報告では丸子の小ホールと同じように平土間としていたが、市民公聴会等で音楽関係者、合唱や吹奏楽ほかの皆さんから、固定席を望む意見をいただき、最終報告では固定席という言い方に変えた。ただ市の整備計画では具体的な構造等には触れてない。まだこれから事業費の関係もあり詰めていく。市民の皆さんの様々な意見をできるだけ計画作りに活かしてきた。

(委員)1月から計画されている整備計画の説明会の位置づけ。出される意見は整備計画にどう活かされるか。2点目として、エコロジーの観点で、どういう設計思想がここに含まれているか。

(交流・文化施設建設準備室)施設の規模、利用等については、まだ確定したものではない。市民説明会で幅広いご意見をいただき、今後の基本設計、実施要領にできるだけ反映していきたい。エコロジーは大事な視点だが、まだこの整備計画の中には、しっかり位置づけてない。地球環境にやさしい施設でないといけないとまとめているので、しっかり大事にしながら進めていきたい。基本設計等を進めていく過程で、しっかりビジョンを描きながら、設計業者からもそういう提案もあろうかと思うので、総合的に検討しながら大事にしていきたい。

(委員)設計内容によって、設備費用に関わってくる。

(交流・文化施設建設準備室)この施設は、維持管理の軽減に努めていくということで、エコロジーの観点でできるだけ、例えば太陽光ほかいろんなシステムがあろうかと思うので、導入を積極的に検討しながら、施設の維持管理の軽減に最大限努めてまいりたい。自然環境で、地域のリーダーシップをとっていける施設造りをめざしてまいりたい。

(委員)運営的には無理があると思うが、大ホールの席は個人的には3,000席あってもいいと思っている。エコの問題はここには載っていないので、説明会では載せてもらいたい。ほかの施設より上田の施設はここが勝っているというところがあるか。

(交流・文化施設建設準備室)市民が誇りを持てるような施設づくりをしていきたい。丸子地域にはセレスホールがあり、私たち旧丸子町民にとっても、心の拠り所と思える施設。今回の施設は、市全体の施設という位置づけの中で、客席数も、現在の上田市市民会館を超える大きさになるが、市民にとって誇りに思えて、地域内外の人たちに訪れていただける、活動が行えるような施設づくりを目指してまいりたい。市内のそれぞれの文化施設は、音楽村をはじめさまざま特徴があるので、できるだけ施設との連携をはかりながら、特徴を兼ね備えてまいりたい。

(3) 上田市未来っ子かがやきプラン骨子案に対する意見募集について(子育て・子育て支援課)

今年度、上田市未来っ子かがやきプラン(次世代育成支援行動計画)の見直しに取り組んでいる。この計画は、次代を担う子どもが健やかに生まれ、育成される社会の育成を目的として策定されるもの。見直しにあたり、国の策定指針に沿い、ニーズ調査など市民の皆さんのご意見を反映させ、平成22年から平成26年度までに実施する事業や時期を定めていくもの。計画の基になる法律は、平成17年度からの10年間の時限立法で定められているものに基づき、地方公共団体及び事業主に対して行動計画の策定を義務付けている。平成17年から21年までの5年間は前期計画で、今年見直し、平成22年から26年までの5年間は後期計画。子育て支援や母性、乳幼児の健康の確保・増進、教育環境の整備等の実施事業を定める。これまで保育等ニーズ調査、保護者の意向を把握する調査などを行い、要望・意見をいただいていた。関係課で内容を検討しながら次世代育成支援対策地域協議会(関係団体、市民ほか15人で構成)で検討いただいていた。今回、素案がまとまったので、1月1日号「広報うえだ」で、骨子案をお知らせし、閲覧をいただき、市民の皆さんから意見募集を行ってまいりたい。委員の皆様にもご協力をお願いしたい。お手元の2枚目、3枚目の資料は概要。

- ・ 2枚目の資料 上田市未来っ子かがやきプラン 骨子案 プランの趣旨、性格、期間を記載。上田市の少子化と子育て環境の現状では、出生数、年少人口の減少、合計特殊出生率の低下傾向といった中で、「理想の子ども的人数」より「実際に予定している子ども的人数」は少ない。子育てに不安や負担を感じている人が6割を占めることがアンケート調査の結果。就労では、未就園児の母親は、出産前後に4割が離職しているという状況を踏まえ、基本理念(案)として、「子どもの笑顔があふれる地域(まち)」～輝け上田の未来っ子 子育てを地域で支え みんなでつくろう 次代のうえだ～を設けてまいりたい。地域、企業のご理解とご協力をいただきながら、安心して子育てができる地域を目指してまいりたい。重点課題と今後の子育て支援策では、これまで行った調査の結果から挙げられる5つの重点課題、今後5年間に重きを置く重点事業として設定してまいりたい。
- ・ 3枚目の資料 計画の内容を体系化したもの。左から、基本理念、大切な視点、基本目標、基本施策、主な事業と記載。5つの視点を踏まえ、基本目標を から まで掲げている。基本目標は前期計画にありそれを踏襲している。それぞれの目標ごとに基本施策を掲げながら事業展開をしていく。施策ごとに代表的な事業を本日は掲げている。次世代育成支援に関連する事業となると、多くの課で実施している。後期行動計画では220ほどの事業を盛り込んで行きたい。 印が重点事業で、重点課題に移行する事業として記載。
- ・ 閲覧いただく資料は、現状課題、取り組む事業、細かい点についても示していきたい。本年度中に策定予定で、子育て全般に関わることで意見募集にご協力いただきたい。

資料2 上田市未来っ子かがやきプラン骨子案に対する意見募集について(お願い)

主な質疑の内容

(委員) すばらしく良くできていると思うが、実際に行動に移してやっていく段階で、地域との関わりや広報で、5年間でどれだけ知っていたか。また、今後の5年間でどういう広報で地域と未来の子どもを育てていくか。文章では立派に出来ているが、現実の行動としてどのように考えているか。(子育て・子育て支援課) 市の広報のみでは、なかなか知っていただけないという現状がある。この計画も、知らなかったというご意見をいただくこともあり、十分気をつけていかなければいけない。特にこれから後期の5年間で、広報はもちろん、例えば子どもが集まる場所、お母さんたちが集まる場所で、市の支援策やイベントについて資料等を配布しながらお知らせしていきたい。皆さ

んに知っていただくという点については、十分内部で検討しながら進めてまいりたい。

(委員) 保育園児の親は働かなければいけない世代で、聞くと、園児 2 人、3 人となると費用負担が多い。働いていれば延長保育にもなり費用負担が増える。援助も検討していただきたい。

(委員) いろいろな施策を進める上で、行政的にできる部分と、行政ではなかなかうまくいなくて、地域の組織等とうまく連携して進められるものがあると思うが、地域の組織と連携して取り組んでいくことについての基本的な考え方、方針は。

(子育て・子育て支援課) 特に小さい子どもを育てている家庭では、もちろん子育てに喜びを感じる人がほとんどだが、孤立感、不安、負担を感じる人も多い。市でも広場事業を開き、親子で集まっていたいただき、日頃の悩みを話していただく場を設けているが、限られた時間である。地域の皆さんにも関わっていただき、地域でも顔見知りになるなど、気軽に少しでも話し声をかけていただくことを、これから大切に進めていかなければいけない。協力をお願いすることもでてくると思うがよろしくをお願いしたい。

(委員) 重点事業の中の「赤ちゃんステーション」を、ファーストビルにも設置する予定になっているが、ただベッドを置くのか、それともいろいろと設備を考えているか。

(子育て・子育て支援課) 赤ちゃんステーションは、授乳スペース、オムツ替えのスペースで、お母さんが気軽に寄れる場所として考えている。場所等の提供にご協力いただきとありがたい。ミルクに入れるお湯を沸かせる場所があり、広いスペースではなく赤ちゃん用ベッドがあるとありがたい。

(委員) 重点事業で幼保小中連携事業とあるが、どんなことを計画されているか。

(子育て・子育て支援課) 子どもは、幼・保育園から、小学校、中学校へと成長する。小学校、中学校へあがる時、子どもの状況を保育園や幼稚園の先生から学校の先生へと繋がりながら子どもを見守っていく。今特に発達障害について、現場の先生と、子どもの状況を把握しながらとぎれないようにしていきたい。

(4) 社会教育課・丸子公民館関係について (社会教育課)

- ・ 「子どもの日行事補助金について」 丸子地域の 26 自治会ごとに行う「子どもの日等行事の実施に要する経費」に対し、旧丸子町の時代から、「未就学児童数 × 300 円」を、各自治会へ交付してきた。事業科目は分館活動振興事業費で、公民館のお金として出している。実績としては、平成 20 年度の決算額が 33 万 4 千円、平成 21 年度の予算額が 39 万円、21 年度実施済額が 33 万 1 千 5 百円。この事業に対し、「丸子のみの制度であるので平成 21 年度から廃止をしていただきたい」と、市の事業仕分けにおいて平成 20 年度に指摘をいただいた。分館事業の大きな目玉であるので、分館交付金改革とあわせてとお願いし、平成 21 年度は継続し交付した。先ごろ分館交付金の方針が決まったので、平成 22 年度から廃止をすることで、12 月 16 日の丸子地域自治会長連絡会へも報告した。廃止し、分館交付金改革の中に盛り込むこととした。平成 22 年度は現状の枠のとおり。平成 23 年度から多く変わる。調整案として、旧上田地域 (6 公民館単位) は比較的多く減る。旧真田は減る。旧武石、丸子については増える。金額は調整している。
- ・ 「丸子図書館建設について」 懸案であった丸子図書館建設について、ある程度方向が見えてきた。丸子、武石から選任した委員 13 人で「丸子図書館建設運営研究会」がスタート。自治連会長をはじめ、丸子、武石地域の協議会会長もメンバーに入っている。事務局は、社会教育課で担当。丸子金子図書館は本来、社会教育管轄ではなく上田図書館直属、社会教育施設の整備は生涯学習課だが、一日も早く建設してまいりたいために、事務局、建設も社会教育課で受けて進めている。資料訂正 = H23... 外溝 外構、用地 7,6901 m² 7,690 m² 建設の目途(大枠) ・事業年度 H22 ~ 24 の 3

年間で整備。H22...基本・実施設計、用地取得。H23...建設、外構工事。H24...図書・備品購入。・用地 中丸子保育園北側の6,390 m²と給食センターの西側1,300 m²で7,690 m²。・建物 鉄骨平屋建面積は1,439 m²前後。・全体経費 8億5千万円前後。大枠なのでこれらは変わる可能性がある。真田図書館がようやく着工となった。次は丸子の番。武石は丸子の分館扱いで、丸子と歩調をあわせて一緒に活動している。3月末に市長選挙と市議会議員選挙があるため、平成22年度予算要求はしてあるが、骨格予算で、選挙後に投資的経費の予算が再度計上される。平成22年度予算要求をしている基本・実施設計、用地取得の予算については、選挙後に計上される。12月の議会全員協議会で、議会議員へは内容を報告。全体の建物面積、経費については、旧丸子町で策定したものよりも、若干減っている。減った理由として、丸子町では丸子ですべて完結していた。今度は大きな上田市の中の丸子・武石地域の図書館という位置づけなので、例えば図書の重複するもの、建物等の重複するものは上田中央図書館と共生していく。重複するものは削除する部分がある。

- ・ 「丸子公民館移転について」 現在の丸子公民館は、丸子文化会館と一体で共用している。近年、利用が右肩上がり。旧丸子の時代には6万人ほどだったが、平成19年に8万人を突破した。理由としては、上田市で行う大きな大会がほとんどこちらへ来ている状況。皆さん方にご迷惑をおかけしている。会場が使いづらくなったという話しも聞いている。抜本的な対策ができないか調整していた。丸子町商工会のファーストビルへの移転に伴い、今、丸子町商工会が入っている丸子文化センターは元々公民館施設で、商工会の移転の跡地を丸子公民館に変えていきたい。そのための経費については、本来は二次経費・投資的経費で4月以降になるが、特例で当初予算に計上している。4月から始めたいが、商工会の移転も絡むので、流動的要素あり。

資料3 社会教育課・丸子公民館関係報告事項3件

主な質疑の内容

- ・ 新図書館建設について

(委員) 昔に合併した依田村、長瀬村の古文書の保管を考えていただきたい。

(社会教育課) 図書館の地域割り、どの地域にどういうものを重点的に置くかについてはこれから検討していく。古文書もあるが、一番は子どもたち、幼児・小学生が拠り所として使える図書館を丸子はお願いしている。子どもはこの地域の宝で、子どもがこの地域を支えていくことになるので、そういう関係の図書の充実を要望している。

(委員) 図書館用地の数字の違い、資料1では5,200 m²だが、資料3では6,390 m²。建物以外は芝生とか公園ということか。

(社会教育課) 公園緑地課で、図書館の北側に水辺公園を計画している。図書館でも公園でも使える駐車場も整備する計画で、有効的に使いたい。図書館の建物の面積は蔵書数により割り出される。細かい内容についてはこれから調整する要素があり決定ではない。これからみなさんの要望を受けて、できるだけ皆さんの要望に沿ったものにしていきたい。

(委員) 旧金子図書館の利用はどうか。児童館にしてもらえないかという要望を聞いた。

(社会教育課) 金子図書館はRC(鉄筋コンクリート)でできている。鉄筋コンクリートは耐用年数60年で、金子図書館は耐用年数を経過していないが、あちこちにヒビが入っている。建設当時は、現場でコンクリート打ちしたもので強度の強弱があり、現在の耐震をクリアできない。鉄筋も丸棒。あの建物を他の用途に利用するのは非常に厳しいのではないかと。給食センターと同様に、更地にして学校でより効率的に使っていただくことが理想的だが、確定ではない。

(委員) 図書館の中に、ファーストビルの2階にあった情報館に似たものを造るという話しはあるか。

(社会教育課) 情報館と図書館の機能は違う。図書館にパソコンを入れるとなると、建物の設計は違ってくる。基本的にあくまでも図書館で、移動図書館の基地にもなる。いろんな要素があるが、今のところ情報館という要素は考えてない。そういう要望があるということは関係部署へ伝える。

(委員) 丸子町の新図書館建設委員会で設計プランが作られていたが、それはどうなるか。まるで違うものができるのか。

(社会教育課) 旧丸子町でたたき台を作り設計のプロポーザルまでして検討した経過も十分承知している。ただ、新図書館は、上田市という大きな枠の中での地域図書館という位置づけとなる。丸子で完結していたものとは内容が変わってくる。できるだけ組み込んで残していきたい。

(委員) 検索機能的な意味での情報の活用はどの程度あるか。

(社会教育課) 図書の検索システムはできている。全国レベルで見ると、長野県は普及している先進地。上田はいち早く検索システムが立ち上がっている地域で、検索機能は現在の金子図書館にもあり、新図書館へも引き継がれる。

・ 丸子公民館移転について

(委員) 現在の建物は壊して新しく建てるか、建物を利用して公民館が入るといふことか。

(社会教育課) 今の建物は耐用年数があり十分使える。トイレ等は直すが、現在の建物をそのまま利用する。

(5) 平成 22 年度わがまち魅力アップ応援事業の募集について (地域振興課)

平成 22 年度募集の概要を説明。今回の募集で 2 点ほど見直し。 使用料及び賃借料について、軽トラや草刈機など仲間内での借り上げに上限単価を設定。 事業の実施にあたり若干の会議費を認める。事前の打合せ、中間協議や反省会など、事業の実施に際し、団体の構成員の皆さんが何回か集まる機会に、希望される団体には、お茶や若干の飲み物などの経費の一部に 5% 上限で認める。申込期間は平成 22 年 1 月 25 日から 2 月 19 日まで。「申込書」と「事前チェック用紙」を提出いただく。チェック表で、他制度の補助を受けていないか、対象となる事業かなどをチェック。2 月 19 日に締切り、2 月の地域協議会で可能な限り必要な団体の現地視察を行う。3 月の地域協議会でプレゼンテーション選考により審査する。資料には、Q & A、応募団体から提出していただく用紙類がある。概要、Q & A、申込書書類一式すべて窓口で配布する。市のホームページにも掲載。広報うえだへは 1 月 1 日号に募集記事が掲載される予定。

・ 前回の質問に対する報告

(事務局) わがまち魅力アップ応援事業に採択された事業が、他の制度の補助をうけているものがあるのではないかと質問をいただいた。わがまち魅力アップ応援事業の補助対象経費として、同一年度に国・県及び市の他の制度による補助実績のある事業については補助対象外としている。調べたところ、県の地域発 元気づくり支援事業へも申請している事例があった。一つは、申請団体名、申請内容が全く同じなものが両方で採択されたが、市のわがまち魅力アップ応援事業を取り下げている。もう一つは、申請団体名、申請の事業名が同じであったが、事業の中身が全く別の事業を補助対象として申請していた。この事業については地域協議会で判断され交付決定されている。

資料 4 「わがまち魅力アップ応援事業」平成 22 年度事業 募集のお知らせ

主な質疑の内容

(委員) 採用・不採用の基準について、上田市の基準でいくのか、丸子独自の基準でいくのかははっきりさせておかないといけないのではないかと。来月の協議会では決めていただきたい。2 点目として、

3月に実績報告会があり自己評価を出すようになってきている。×式で事業がうまくいったとかという内容だが、評価基準に従ってその項目について再度報告を出してもらって、報告会には資料につけていただきたい。

(会長) 3月の審査までには相談して決めていきたい。

4 調査研究事項

(1) 全体会議

地域協議会のあり方に関する意見書について

(会長) 前回いただいた意見等を盛り込み、再度意見書案を配布。

(事務局) 意見書(案)について説明 1. 地域協議会の役割の強化策について (1) 施策の決定や事業等の実施にあたり、どのように協議会の意見が反映されているのか、意見の扱いや結果について何らかのかたちで公表されることを要望。(2) 諮問あるいは意見を求められたときや、協議会として地域の意見を取りまとめる必要がある場合、専門的な意見や当事者の意見など広く市民の意見を聴取できる仕組みや予算付けを要望。2. 地域全体の発展策について (1) 地域まちづくり方針の具体化に向けた検討組織の立上げに関係部局が積極的に関わるよう要望。(2) 今後の市民協働事業の推進にあたって、自治会との連携が不可欠で、それぞれの役割を明確に示していただきたい。その他、3. 持寄分基金の活用について 4. 地域自治センターのあり方について。たたき台として検討いただきたい。
訂正= 持寄分基金を原資 地域予算を原資

(会長) もう一度皆さんで検討していただき、来年の1月か2月にまとめて、任期中には提出できればと思う。

資料1 地域協議会のあり方に関する意見書(案)

主な質疑の内容

・ なし。

専門部会の報告

・ カネボウ食堂棟活用検討専門部会

(部会長) 専門部会設置要項(案)について説明。4. 調査事項について(1) 旧食堂棟の将来のあり方、活用方法を検討していく。それが見えてきた段階で(2) 使用目的に沿った施設改造計画を検討していく。必要とあれば(3) 建物の耐震強度調査について、検討事項として考えられる。3か月の検討期間なので最終的な方向性を提案するのは無理と考えていて、少なくとも2か月程度の専門部会としての検討の中から、次期地域協議会へ継続してもらえる何らかの方向性が地域協議会全体で作成できるところへ、時間的なものも含めて提案したい。あまり拙速に結論を出してもまずいだろうということで、できるだけ鋭意専門部会で検討してまいりたい。本日も現地視察をしたが、主要設備に対する基本的な考え方、これまで利用されてきている団体・組織、あるいは今後利用されることが想定される団体・組織の皆さんからできるだけ広く意見を聞きたい。できれば1月末ぐらいまでに1回、いろいろな団体からの意見を聴取する場を設けたい。それから、この施設が丸子のいろいろな意味での活性化に十分活用できるような目的に沿って、将来的な管理運営方法の基本的な考え方もまとめていきたい。2月の地域協議会である程度の方向性を出して、3月にまとめていただく方向で検討したい。

(事務局) カネボウ食堂棟に関する報告。「あさつゆ」の増築工事があり営業できないということで、

1月から3月まで、カネボウ食堂棟で仮店舗で営業する。

資料：旧カネボウ丸子工場食堂棟活用検討専門部会設置要項（案）

・ 防犯灯LED化検討専門部会

（部会長）今まで分散会で意見をいただき、自治会長6人による専門部会が設置され前回検討した。具体的に出していただいた意見を意見書としてまとめた。できるだけ早い時期に全体会議で了承いただき意見書を提出し、予算をつけて実施していただきたい。自治会とすれば電気代も含め大変助かる。意見書案についてご意見をいただきたい。

（事務局）訂正=資料5.の意見内容 1行目・設置されおり ~設置されており。9行目・臨む 望む。全体に「ですます調」に変更。

資料5：丸子地域の防犯灯LED化についての意見書(案)

主な質疑の内容

（委員）早くまとめていただいて感謝する。ぜひみんなで協力して早急に進めてもらいたい。補助金でやるにしても各自治会単位になるかどうか細かいことは委員にお任せするとして、何年かの計画になるかと思うが、できるだけ早く設置してもらいたい。

（委員）上丸子の水銀灯は変えている。

（センター長）商店街の街路灯は別の事業で、LEDではないが長持ちして明るいものに変えている。

（会長）訂正部分を直して母袋市長へ提出してまいりたい。私からセンター長へ手渡したい。

委員から「はい」「お願いします」という声あり。

決定事項

- ・ 本日付で意見書を提出する。

(2) 専門部会

- ・ カネボウ食堂棟活用検討専門部会
地域協議会終了後に開催。

5 その他

- ・ 次回の日程、今後の予定について

- ・ 今後の地域協議会の日程

1月19日（火曜日）

- ・ 今後の予定

2月18日（木曜日）依田川リバーフロント市民協働事業・市民会議（17:00～

2月19日（金曜日）わがまち魅力アップ応援事業・平成22年度事業締切日

2月26日（金曜日）第11回丸子地域協議会（現地調査）

3月12日（金曜日）第12回丸子地域協議会（プレゼンテーション選考）

3月19日（金曜日）実績報告会へも出席をお願いしたい。

- ・ 公募委員の募集、次期委員の選出について

地域協議会委員の任期は平成22年3月まで。地域協議会の委員は3期（6年）までできるようになっている。もう1期できるので奮ってご応募いただきたい。選任については、3通りの方法で取

組むようになる。団体推薦 14 名、個人依頼 4 名、公募 2 名でお願いしたい。公募の期限は 1 月 8 日(金曜日)まで。部内の選考委員会で決めていく。平行して、任期中で失礼だとは思いますが、次期に向けて留任の働きかけをしていきたい。前向きに対処いただきたい。

6 閉会